



頭痛

知っておきたい
漢方4処方



反復性に
起こる頭痛、
嘔吐※

手足の冷えやすい中等度以下の体力のもの次の諸症
習慣性偏頭痛、習慣性頭痛に

31 ツムラ呉茱萸湯
エキス顆粒 (医療用) (薬価基準収載)



朝方あるいは
めざめ時に多い
頭痛、頭重感※

**慢性に続く頭痛で中年以降、
または高血圧の傾向のあるものに**

47 ツムラ釣藤散
エキス顆粒 (医療用) (薬価基準収載)



頭痛、悪心、二日酔

口渇、尿量減少するもの次の諸症
頭痛、めまい、浮腫に

17 ツムラ五苓散
エキス顆粒 (医療用) (薬価基準収載)



感冒などの初期に
みられる頭痛や
特発性の頭痛※

頭痛、かぜに

124 ツムラ川芎茶調散
エキス顆粒 (医療用) (薬価基準収載)

※使用目標=証 監修:大塚恭男、花輪壽彦(北里大学) 裏面参照

ガイドライン 呉茱萸湯・釣藤散・五苓散は「慢性頭痛の診療ガイドライン2013」に掲載されています。(グレードB)
(日本神経学会・日本頭痛学会監修、慢性頭痛の診療ガイドライン作成委員会編、医学書院、2013、p.42.)

17 ツムラ五苓散エキス顆粒(医療用)

効能又は効果

口渇、尿量減少するものの次の諸症：
浮腫、ネフローゼ、二日酔、急性胃腸カタル、下痢、悪心、嘔吐、めまい、胃内
停水、頭痛、尿毒症、暑気あたり、糖尿病

〈参考:証に関わる情報〉使用目標=証*

口渇ならびに尿量減少を主目標として用いる。
1)浮腫、悪心、嘔吐、頭痛、めまいなどの症状を伴う場合。
2)心窩部に振水音を認める場合。

使用上の注意

- 重要な基本的注意 (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。
- 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。

	頻度不明	注1)このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。
過敏症 ^{※1)}	発疹、発赤、痒疹等	
肝臓	肝機能異常(AST(GOT)、ALT(GPT)、γ-GTP等の上昇)	
- 高齢者への投与 一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。
- 妊婦、産婦、授乳婦等への投与 妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。
- 小児等への投与 小児等に対する安全性は確立していない。[使用経験が少ない]

(2014年10月改訂)

31 ツムラ呉茱萸湯エキス顆粒(医療用)

効能又は効果

手足の冷えやすい中等度以下の体力のものの次の諸症：
習慣性偏頭痛、習慣性頭痛、嘔吐、脚気衝心

〈参考:証に関わる情報〉使用目標=証*

比較的体力の低下した冷え症の人で、反復性に起こる激しい頭痛を訴える場合に用いる。
1)項や肩のこり、嘔吐などを伴う場合。
2)心窩部に膨満感、痞塞感あるいは振水音を認める場合。

使用上の注意

- 重要な基本的注意 (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。
- 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。

	頻度不明	注1)このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。
過敏症 ^{※1)}	発疹、蕁麻疹等	
肝臓	肝機能異常(AST(GOT)、ALT(GPT)の上昇等)	
- 高齢者への投与 一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。
- 妊婦、産婦、授乳婦等への投与 妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。
- 小児等への投与 小児等に対する安全性は確立していない。[使用経験が少ない]

(2013年7月改訂)

47 ツムラ釣藤散エキス顆粒(医療用)

効能又は効果

慢性に続く頭痛で中年以降、または高血圧の傾向のあるもの

〈参考:証に関わる情報〉使用目標=証*

体力中等度あるいはやや低下した中年以降の人で、慢性に経過する頭痛、肩こり、めまいなどを訴える場合に用いる。
1)朝方あるいはめざまし時に頭痛、頭重感のあることが多い。
2)のぼせ、耳鳴、不眠、眼球結膜の充血などを伴う場合。

使用上の注意

- 重要な基本的注意 (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。(3)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。
- 相互作用 併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
(1)カンゾウ含有製剤 (2)グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤	偽アルドステロン症があらわれやすくなる。 また、低カリウム血症の結果として、ミオパチーがあらわれやすくなる。〔重大な副作用〕の項参照)	グリチルリチン酸は尿管管でのカリウム排泄促進作用があるため、血清カリウム値の低下が促進されることが考えられる。
- 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。
(1)重大な副作用 1)偽アルドステロン症:低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。2)ミオパチー:低カリウム血症の結果としてミオパチーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、脱力感、四肢痙攣・麻痺等の異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。
(2)その他の副作用

	頻度不明	注1)このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。
過敏症 ^{※1)}	発疹、蕁麻疹等	
消化器	食欲不振、胃部不快感、軟便、下痢、便秘等	
- 高齢者への投与 一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。
- 妊婦、産婦、授乳婦等への投与 妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。
- 小児等への投与 小児等に対する安全性は確立していない。[使用経験が少ない]

(2007年5月改訂)

124 ツムラ川芎茶調散エキス顆粒(医療用)

効能又は効果

かぜ、血の道症、頭痛

〈参考:証に関わる情報〉使用目標=証*

体力の強弱にかかわらず、感冒などの初期にみられる頭痛や特発性の頭痛に用いる。
1)感冒では初期で、頭痛の他、悪寒、発熱、関節痛などのある場合。

使用上の注意

- 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) (1)著しく胃腸の虚弱な患者〔食欲不振、胃部不快感、悪心、下痢等があらわれるおそれがある。〕(2)食欲不振、悪心、嘔吐のある患者〔これらの症状が悪化するおそれがある。〕
- 重要な基本的注意 (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。(3)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。
- 相互作用 併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
(1)カンゾウ含有製剤 (2)グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤	偽アルドステロン症があらわれやすくなる。 また、低カリウム血症の結果として、ミオパチーがあらわれやすくなる。〔重大な副作用〕の項参照)	グリチルリチン酸は尿管管でのカリウム排泄促進作用があるため、血清カリウム値の低下が促進されることが考えられる。
- 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。
(1)重大な副作用 1)偽アルドステロン症:低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。2)ミオパチー:低カリウム血症の結果としてミオパチーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、脱力感、四肢痙攣・麻痺等の異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。
(2)その他の副作用

	頻度不明	
消化器	食欲不振、胃部不快感、悪心、下痢等	
- 高齢者への投与 一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。
- 妊婦、産婦、授乳婦等への投与 妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。
- 小児等への投与 小児等に対する安全性は確立していない。[使用経験が少ない]

(2007年5月改訂)

※使用目標=証 監修:大塚恭男、花輪壽彦(北里大学)

■ 用法及び用量:通常、成人1日7.5gを2~3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。
 ■ 日本標準商品分類番号:875200 ■ 薬効分類名:漢方製剤 ■ 取扱い上の注意:(貯法)しゃ光・気密容器/(使用期限)容器、外箱に表示
 ■ 製造販売会社:株式会社ツムラ
 ・ 組成・性状、包装、関連情報(承認番号、薬価基準収載年月、販売開始年月等)については製品添付文書をご覧ください。
 「使用上の注意」等の改訂には十分ご留意下さい。

(2013年8月制作)
(2017年3月改訂)

PSD033 (審)



〒107-8521 東京都港区赤坂二丁目17番11号 <http://www.tsumura.co.jp/>
お客様相談窓口 Tel.0120-329-970